

2. 都市ビジョン

2-1 将来都市像

栗原市都市計画マスタープランの将来都市像を踏まえます。



2-2 将来都市構造

《基本的な考え方》

将来都市構造は、将来の都市の骨格をなす姿形を概念図で表現します。本マスタープランでは、「骨格となる都市軸」「基本ゾーニング」「都市の拠点」の配置、機能の位置づけを定めます。

(1) 都市軸

1) 広域高速軸

- ・対象路線：東北縦貫自動車道、みやぎ県北高速幹線道路、東北新幹線
- ・仙台都市圏をはじめ県内外の主要都市、さらには首都圏を直接的に結ぶ高速交通ネットワーク軸を形成します。

2) 広域骨格都市軸

- ・対象路線：国道4号及び国道4号築館バイパス
- ・国道4号及び国道4号築館バイパスは、東北縦貫自動車道や東北新幹線の広域高速軸と合わせて、東北地方の大動脈となるネットワークの一翼を担う骨格軸として位置づけます。
- ・本市においては、築館地域の市街地内の骨格を形成するとともに高清水地域、金成地域を通り、さらに隣接する大崎市や一関市の中心市街地をはじめとする主要都市間を連絡し、広域的な都市活動を支える南北方向の都市軸を形成します。

3) 広域都市軸

- ・対象路線：国道398号、国道457号
- ・国道398号は、隣接する登米市、秋田県湯沢市などの都市間を連絡する東西方向の広域的な都市軸として位置づけます。本市においては、築館地域及び若柳地域の市街地内の骨格を形成するとともに、双方の市街地間を直接的に結び、さらに志波姫地域、一迫地域、花山地域の中心地を連携する東西方向の都市軸を形成します。
- ・国道457号は、市域の西側を南北方向に通る、市内を縦断して大崎市や一関市などの隣接都市間を連絡する南北方向の広域的な都市軸として位置づけます。本市においては、栗駒地域と鶯沢地域の中心地や花山地域を連携する南北方向の都市軸を位置づけます。

4) 地域軸

- ・対象路線
(主) 古川佐沼線、(主) 中田栗駒線、(主) 栗駒岩出山線、(主) 河南築館線、
(主) 築館登米線、(主) 築館栗駒公園線、(主) 古川一迫線、(一) 真山高清水線、
(一) 若柳築館線、(一) 伊豆沼くりこま高原駅線、(一) 栗駒金成線

※ (主)：主要地方道、(一)：一般県道

- ・広域骨格都市軸及び広域都市軸を補完し、市内に分布している地域間やI C、東北新幹線くりこま高原駅などを機能的に結ぶことで、田園都市を構成する利便性の高い交通ネットワークを形成しコンパクトシティ・プラス・ネットワークの実現を図ります。

(2) 基本ゾーニング

《基本的な考え方》

都市的な土地利用を促進する「都市的土地利用ゾーン」と自然や田園環境の維持・保全を基本に、無秩序な都市化を抑制する「環境保全ゾーン」の明確な区分を行います。

1) 都市的土地利用ゾーン

①市街地ゾーン

- ・ 築館地域及び若柳地域の用途地域が指定されている地域を位置づけます。住居・商業・工業等の土地利用と地域生活及び都市活動に必要な機能が適正かつ効率的に配置された「機能集約型市街地」の実現を目指します。

②中核機能ゾーン

- ・ 国道4号築館バイパスや、みやぎ県北高速幹線道路など高速交通網の結節点となる東北新幹線くりこま高原駅周辺から築館宮野地区までの地域を位置づけます。
- ・ 市民にとって新たな中心地域として、新たな交流や賑わいを創出する都市機能が集積した中核機能ゾーンの形成を目指します。

2) 環境保全ゾーン

①平地ゾーン

- ・ 広大で肥沃な田園地帯やラムサール条約湿地「伊豆沼・内沼」等を有していることから、良好な自然・農地の環境保全を推進します。
- ・ 高速交通の利便性の高い地域であることから、良好な交通条件を活かした工業団地の形成など、新たな土地利用展開も需要に応じて適切に誘導していきます。

②中山間ゾーン

- ・ 農業が盛んな地域であることから、農地等の保全と生産基盤の整備を促進します。農地等と共存して形成されている各地区の中心地や集落地は、道路等の交通アクセス及び地域間連携の強化を図るなど、豊かでゆとりある快適な定住環境の充実を目指します。

③森林保全ゾーン

- ・ 栗駒山麓を中心とした豊かな自然に囲まれた森林地帯については、将来にわたって市の自然財産として保全、継承に努めます。
- ・ 自然環境の保全を図りながら、自然とふれあう観光・レクリエーション空間の環境整備を推進します。

(3) 都市拠点

1) 市街地都市拠点

- ・用途地域をもつ築館地域並びに若柳地域の中心地を位置づけます。各地域の中心市街地を形成し、商店街や業務施設・行政施設等の都市機能が集積する都市拠点を形成します。
- ・既存の都市機能を維持・活用するとともに、公共交通等で利用可能な市民生活に必要な都市機能の適正な誘導を図ります。

2) 中核生活拠点

- ・中核機能ゾーンに位置する栗原中央病院周辺、国道4号築館バイパスと国道398号交差点周辺及び東北新幹線くりこま高原駅周辺を位置づけます。

① 生活創造拠点（栗原中央病院周辺）

- ・既設の都市機能を補完し、市民の暮らしの安全の維持向上と、暮らしの質の向上に寄与する広場・公園機能、多世代多地域交流機能、子育て支援機能、防災機能等が充実した拠点の形成を図ります。

② 商業観光拠点（みやぎ県北高速幹線道路と国道4号築館バイパス交差点周辺）

- ・周辺の良い交通環境など将来的なポテンシャルを活かし、本市の雇用の創出に寄与する産業振興機能、休憩施設機能、情報発信機能、交通アクセス機能等が充実した拠点の形成を図ります。

③ 移住・交流拠点（東北新幹線くりこま高原駅周辺）

- ・市の玄関口としてふさわしい宿泊機能や飲食機能を高め、来訪者が少しでも長く滞在したくなる魅力ある交流の場や、交流を契機とした移住を促進する住環境が充実した拠点の形成を図ります。

3) 都市生活拠点

- ・平地ゾーン、中山間ゾーンに位置し都市計画区域を有する栗駒地域、金成地域の中心地を位置づけます。
- ・生活に密着した商業・業務・総合支所等の施設のほか、地域医療の中心となる市立病院、市民の雇用の場となる工業団地など、豊かな都市生活に必要な機能が確保された生活拠点の形成を図ります。

4) 地域生活拠点

- ・平地ゾーン、中山間ゾーンに位置する高清水地域、一迫地域、瀬峰地域、鶯沢地域、花山地域の中心地を位置づけます。
- ・それぞれの地域における生活に密着した商業・業務・総合支所等の施設の集積と各地域がこれまで育ててきた地域個性を活かした交流、コミュニティの醸成を図る場となる生活拠点を形成します。
- ・拠点の中心集落においては、地域住民が行政や事業者、各種団体と協力・役割分担をしながら、日常生活に必要な機能の集約等を行うことにより、地域課題の解決や地域生活の利便性の維持・向上を図り、住み慣れた地域に住み続けられる地域づくりを進めます。

5) 広域交通拠点

- ・本市への広域交通の玄関口となる東北新幹線くりこま高原駅、東北縦貫自動車道築館 IC 及び若柳金成 IC の各周辺を位置づけます。
- ・各種交通機関の結節機能の充実を図るとともに、市の玄関口にふさわしい駅前・沿道景観づくりを誘導します。

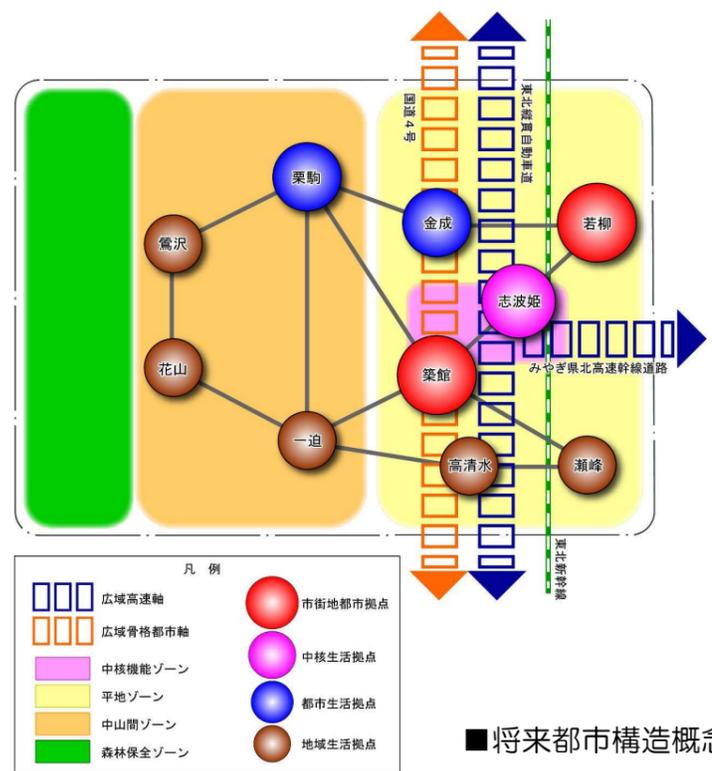
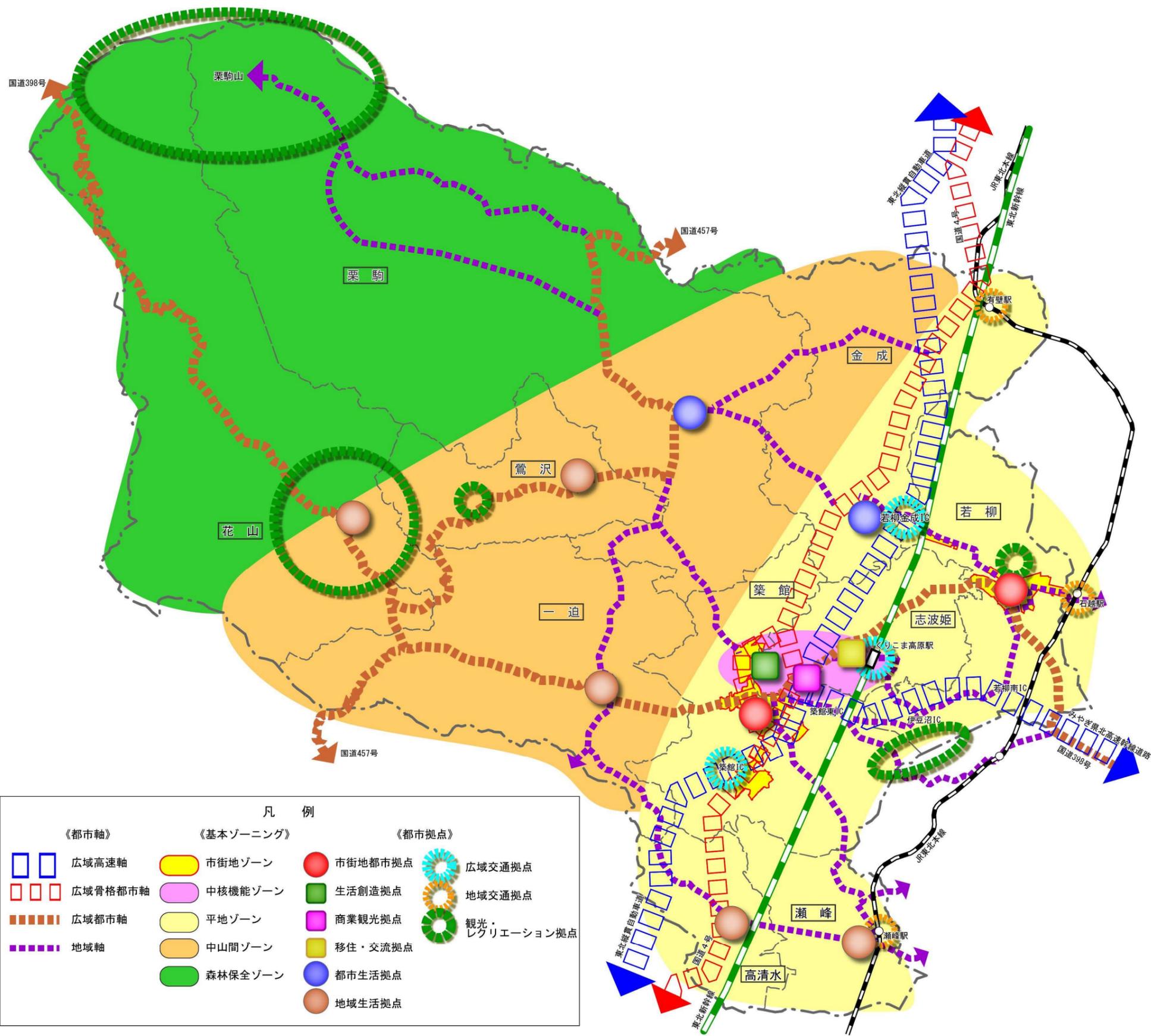
6) 地域交通拠点

- ・JR 東北本線瀬峰駅、石越駅(登米市)、有壁駅の周辺地域を位置づけます。市民の生活の足となる公共交通等の利用促進を図るよう、鉄道とバスの結節機能が充実した拠点を形成します。

7) 観光・レクリエーション拠点

- ・広域的な集客のある栗駒山、伊豆沼・内沼、花山湖の各周辺、細倉マインパーク及びくりはら田園鉄道公園を位置づけ、水辺・緑の環境や歴史文化資源を活かした拠点の形成を図ります。





| 凡例 | | |
|-----------------|-----------|---------------|
| 《都市軸》 | 《基本ゾーニング》 | 《都市拠点》 |
| □ □ □ □ 広域高速軸 | 市街地ゾーン | 市街地都市拠点 |
| □ □ □ □ 広域骨格都市軸 | 中核機能ゾーン | 生活創造拠点 |
| — — — — 広域都市軸 | 平地ゾーン | 商業観光拠点 |
| — — — — 地域軸 | 中山間ゾーン | 移住・交流拠点 |
| | 森林保全ゾーン | 都市生活拠点 |
| | | 地域生活拠点 |
| | | 広域交通拠点 |
| | | 地域交通拠点 |
| | | 観光・レクリエーション拠点 |

図2-1 将来都市構造図